

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第25回

学生たちの視点と発見

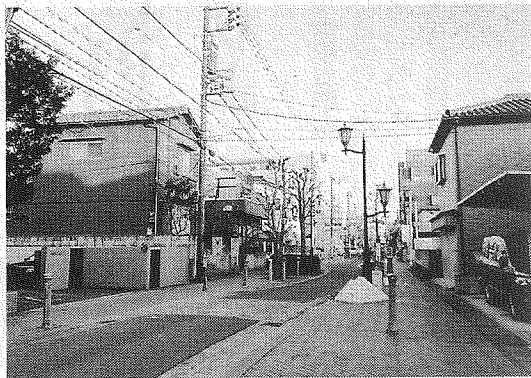
【学生の目】

まっすぐな道を曲げて使う、不思議な道路に出会った。土地区画が整然とした浦安市北栄地区では1985年から89年にかけて交通事故発生件数が約2倍に増加した。原因を調べると狭い道路に1日約2万台

交通事故多発地域に打開策

特徴は車道をスラローム型にした点である。S字に蛇行させた形は車のスピードを抑制させると共に、違法駐車の手防にも有効である。道路をジグザグの形にするクラック型も取り入れられた。スピードを抑制する点はS字型と共通で、違法駐車を取り締まりに有効である。これはポルンエルフ道路といわれ、70年代のオランダが起源だ。更に、交差点の車道にハンパと呼ばれる突起をつけて、

その効果が実証されている。ロードピエモデル事業では路面のカラー化に加えて、付設される街灯やボラード(柵)、ベンチやゴミ箱などがヨーロッパを意識したお洒落なデザインになっている。安全と景観に配慮された道路が地域に付加価値を与えていて、私の家の前もこんな素敵な道路になってほしいと思う。一方で課題も感じる。一つは視線を道路から街並みに移したときの違和感だ。灰色のコンクリートブロック塀や電柱が多数



景観効果もあるスピードが出せない道

人が主役の道で地域価値も

スピードの出しすぎを二重に抑制している。

一般道路は黒や灰色の無彩色であるのに対し、人々の注意を引くアイディアとして路面がカラー化された。歩道には赤レンガを敷きつめ、車道はグレーを基調としながらも明るさを感じる色彩でデザインされている。路面のカラー化は交通事故防止対策の一つとして全国的に普及、

よって、平時の安全と緊急時の安心を両立する必要がある。道路ごとに役割を分担することも有効ではないだろうか。

【教員のコメント】

海外では、住所は道路名で示され、道路名が不動産相場の目安となる。面的な住居表示の我が国では、道路に対する感度は低く、不動産分野でも道路の影響力は少ない。高齢社会の安全、人口減少時代の魅力の確保という面で、道路への感度が高まりそうだ。



森田 愛理
不動産学部2年

総合・政策

不動産の不思議 不動産のふしぎ 不動産の不思議 不動産のふしぎ